



Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスのセキュリティ 設定

この章は、次の内容で構成されています。

- [SRST のセキュリティの概要 \(P.13-2\)](#)
- [SRST セキュリティの設定のヒント \(P.13-3\)](#)
- [SRST のセキュリティ設定用チェックリスト \(P.13-4\)](#)
- [SRST リファレンスのセキュリティ設定 \(P.13-5\)](#)
- [SRST リファレンスのセキュリティの設定内容 \(P.13-7\)](#)
- [SRST リファレンスからのセキュリティの削除 \(P.13-8\)](#)
- [SRST 証明書がゲートウェイから削除された場合 \(P.13-8\)](#)
- [その他の情報 \(P.13-8\)](#)

SRST のセキュリティの概要

SRST 対応ゲートウェイは、Cisco Unified Communications Manager がコールを完了できない場合に、制限付きのコール処理タスクを提供します。

保護された SRST 対応ゲートウェイには、自己署名証明書が含まれています。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで SRST 設定作業を実行した後、Cisco Unified Communications Manager は TLS 接続を使用して SRST 対応ゲートウェイで証明書プロバイダーサービスを認証します。Cisco Unified Communications Manager は SRST 対応ゲートウェイから証明書を取得して、その証明書を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで従属デバイスをリセットすると、TFTP サーバは SRST 対応ゲートウェイの証明書を電話機の `cnf.xml` ファイルに追加してファイルを電話機に送信します。これで、保護された電話機は TLS 接続を使用して SRST 対応ゲートウェイと対話します。



ヒント

電話機設定ファイルには、単一の発行者からの証明書だけが含まれます。そのため、HSRP はサポートされません。

SRST セキュリティの設定のヒント

次の基準が満たされることを確認します。この基準を満たすと、保護された電話機と SRST 対応ゲートウェイとの間で接続の安全が保障されます。

- SRST リファレンスに自己署名証明書が含まれている。
- Cisco CTL クライアントを介して混合モードを設定した。
- 電話機に認証または暗号化を設定した。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで SRST リファレンスを設定した。
- SRST の設定後に、SRST 対応ゲートウェイおよび従属する電話機をリセットした。



(注)

Cisco Unified Communications Manager は、SRST 対応ゲートウェイ向けに、電話機の証明書情報を含む PEM 形式のファイルを提供します。

LSC 認証では、CAPF ルート証明書 (CAPF.der) をダウンロードしてください。このルート証明書では、セキュアな SRST が TLS ハンドシェイク中に電話機の LSC を確認できます。

- クラスタセキュリティモードが非セキュアになっている場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイスセキュリティモードが認証済みまたは暗号化済みと示されていても、電話機の設定ファイルのデバイスセキュリティモードは非セキュアのままです。このような場合、電話機は、クラスタ内で SRST 対応ゲートウェイおよび Cisco Unified Communications Manager サーバとの非セキュア接続を試行します。



(注)

クラスタセキュリティモードは、スタンドアロンサーバまたはクラスタのセキュリティ機能を設定します。

- クラスタセキュリティモードが非セキュアになっている場合は、デバイスセキュリティモードや [セキュア SRST (Is SRST Secure?)] チェックボックスなど、セキュリティ関連の設定が無視されます。設定がデータベースから削除されることはありませんが、セキュリティは提供されません。
- 電話機が SRST 対応ゲートウェイへのセキュア接続を試行するのは、クラスタセキュリティモードが混合モードで、電話機設定ファイル内のデバイスセキュリティモードが認証済みまたは暗号化済みで設定されており、[SRST 参照先の設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウで [セキュア SRST (Is SRST Secure?)] チェックボックスがオンになっている、電話機の設定ファイル内に有効な SRST 証明書が存在する場合だけです。
- 前のリリースの Cisco Unified Communications Manager でセキュアな SRST 参照先のセキュリティを設定した場合は、アップグレード時にその設定が自動的に移行されます。
- 暗号化済みまたは認証済みモードの電話機が SRST にフェールオーバーし、SRST での接続中にクラスタセキュリティモードが混合モードから非セキュアモードに切り替わった場合、これらの電話機は自動的に Cisco Unified Communications Manager にフォールバックされません。SRST ルータの電源を切り、強制的にこれらの電話機を Cisco Unified Communications Manager に再登録する必要があります。電話機が Cisco Unified Communications Manager にフォールバックした後、管理者は SRST の電源を投入でき、フェールオーバーおよびフォールバックが再び自動になります。

SRST のセキュリティ設定用チェックリスト

表 13-1 を使用して、SRST のセキュリティ設定手順を進めます。

表 13-1 SRST のセキュリティ設定用チェックリスト

設定手順	関連手順および関連項目
ステップ 1 SRST 対応ゲートウェイで必要なすべての作業を実行したことを確認します。すべてを実行すると、デバイスが Cisco Unified Communications Manager およびセキュリティをサポートします。	このバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートする『Cisco IOS SRST Version System Administrator Guide』。これは、次の URL で入手できます。 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/srst/srst33/srst33ad/index.htm
ステップ 2 Cisco CTL クライアントのインストールおよび設定に必要なすべての作業を実行したことを確認します。	Cisco CTL クライアントの設定 (P.3-1)
ステップ 3 電話機に証明書が存在することを確認します。	使用中の電話機モデルの Cisco Unified IP Phone マニュアルを参照してください。
ステップ 4 電話機に認証または暗号化を設定したことを確認します。	電話機セキュリティプロファイルの適用 (P.5-13)
ステップ 5 SRST リファレンスにセキュリティを設定します。これには、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウで SRST リファレンスを有効にする作業も含まれます。	SRST リファレンスのセキュリティ設定 (P.13-5)
ステップ 6 SRST 対応ゲートウェイと電話機をリセットします。	SRST リファレンスのセキュリティ設定 (P.13-5)

SRST リファレンスのセキュリティ設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで SRST リファレンスを追加、更新、または削除する前に、次の点を考慮してください。

- 保護された SRST リファレンスの追加：初めて SRST リファレン스에セキュリティを設定する場合、表 13-2 で説明するすべての項目を設定する必要があります。
- 保護された SRST リファレンスの更新：Cisco Unified Communications Manager の管理ページで SRST の更新を実行しても、SRST 対応ゲートウェイの証明書は自動的に更新されません。証明書を更新するには、[証明書の更新] ボタンをクリックする必要があります。クリックすると証明書の内容が表示され、証明書を受け入れるか拒否する必要があります。証明書を受け入れると、Cisco Unified Communications Manager は Cisco Unified Communications Manager サーバまたはクラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager サーバで、信頼できるフォルダにある SRST 対応ゲートウェイの証明書を置き換えます。
- 保護された SRST リファレンスの削除：保護された SRST リファレンスを削除すると、Cisco Unified Communications Manager データベースおよび電話機の cnf.xml ファイルから SRST 対応ゲートウェイの証明書が削除されます。
SRST リファレンスの削除方法は、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

SRST リファレンスのセキュリティを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム] > [SRST] を選択します。

検索と一覧表示ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のどちらかを実行します。

- 新しい SRST 参照先を追加するには、検索ウィンドウで [新規追加] をクリックします (プロファイルを表示してから、[新規追加] をクリックすることもできます)。設定ウィンドウが表示され、各フィールドのデフォルト設定が示されます。
- 既存の SRST 参照先をコピーするには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の説明に従って適切な SRST 参照先を見つけ、[コピー (Copy)] 列内にあるそのレコード用の [コピー (Copy)] アイコンをクリックします (プロファイルを表示してから、[コピー] をクリックすることもできます)。設定ウィンドウが表示され、設定内容が示されます。
- 既存の SRST リファレンスを更新するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の説明に従って適切な SRST リファレンスを見つけます。設定ウィンドウが表示され、現在の設定が示されます。

ステップ 3 表 13-2 の説明に従い、セキュリティ関連の設定を入力します。

その他の SRST リファレンス設定内容の説明については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

ステップ 4 [セキュア SRST (Is SRST Secure?)] チェックボックスをオンにすると、[証明書の更新] ボタンをクリックして SRST 証明書をダウンロードする必要があるというメッセージがダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックします。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

ステップ 6 データベース内の SRST 対応ゲートウェイの証明書を更新するには、[証明書の更新] ボタンをクリックします。



ヒント このボタンは、[セキュア SRST (Is SRST Secure?)] チェックボックスをオンにして [保存] をクリックした後にだけ表示されます。

ステップ 7 証明書のフィンガープリントが表示されます。証明書を受け入れるには、[保存] をクリックします。

ステップ 8 [閉じる] をクリックします。

ステップ 9 [SRST 参照先の設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウで、[リセット] をクリックします。

追加の手順

[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウで SRST リファレンスが有効になったことを確認します。

追加情報




詳細については、[P.13-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

SRST リファレンスのセキュリティの設定内容

表 13-2 で、保護された SRST リファレンスに対して Cisco Unified Communications Manager の管理ページで使用できる設定について説明します。

- 設定のヒントについては、P.13-3 の「SRST セキュリティの設定のヒント」を参照してください。
- 関連する情報および手順については、P.13-8 の「関連項目」を参照してください。

表 13-2 SRST リファレンスのセキュリティの設定内容

設定	説明
[セキュア SRST (Is SRST Secure?)]	<p>SRST 対応ゲートウェイに、自己署名証明書が含まれることを確認した後、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>SRST を設定してゲートウェイおよび従属する電話機をリセットすると、Cisco CTL Provider サービスは SRST 対応ゲートウェイで証明書プロバイダー サービスに認証を受けます。Cisco CTL クライアントは SRST 対応ゲートウェイから証明書を取得して、その証明書を Cisco Unified Communications Manager データベースに格納します。</p> <p> ヒント データベースおよび電話機から SRST 証明書を削除するには、このチェックボックスをオフにして [保存] をクリックし、従属する電話機をリセットします。</p>
[SRST 証明書プロバイダーポート (SRST Certificate Provider Port)]	<p>このポートは、SRST 対応ゲートウェイ上で証明書プロバイダー サービスに対する要求を監視します。Cisco Unified Communications Manager はこのポートを使用して SRST 対応ゲートウェイから証明書を取得します。Cisco SRST 証明書プロバイダーのデフォルト ポートは 2445 です。</p> <p>SRST 対応ゲートウェイ上でこのポートを設定した後、このフィールドにポート番号を入力します。</p> <p> ヒント ポートが現在使用中の場合や、ファイアウォールを使用してファイアウォール内のポートを使用できない場合には、異なるポート番号の設定が必要になることもあります。ポート番号は、1024 ~ 49151 の範囲に存在する必要があります。この範囲外にある場合、「ポート番号に使用できるのは数字だけです。」というメッセージが表示されます。</p>
[証明書の更新]	<p> ヒント このボタンは、[セキュア SRST (Is SRST Secure?)] チェックボックスをオンにして [保存] をクリックした後にだけ表示されます。</p> <p>このボタンをクリックすると、Cisco CTL クライアントは Cisco Unified Communications Manager データベースに格納されている既存の SRST 対応ゲートウェイの証明書を置き換えます (証明書がデータベースに存在する場合)。従属する電話機をリセットした後、TFTP サーバは cnf.xml ファイルを (新しい SRST 対応ゲートウェイの証明書と共に) 電話機に送信します。</p>

SRST リファレンスからのセキュリティの削除

セキュリティの設定後に SRST リファレンスを非セキュアにするには、[SRST 参照先の設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウで、[セキュア SRST (Is SRST Secure?)] チェックボックスをオフにします。ゲートウェイ上のクレデンシャルサービスを無効にする必要がある旨のメッセージが表示されます。

SRST 証明書がゲートウェイから削除された場合

SRST 証明書が SRST 対応のゲートウェイから削除されている場合は、その SRST 証明書を Cisco Unified Communications Manager データベースと IP Phone から削除する必要があります。

この作業を実行するには、[SRST 参照先の設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウで、[セキュア SRST (Is SRST Secure?)] チェックボックスをオフにして [保存] をクリックし、[リセット] をクリックします。

その他の情報

関連項目

- [SRST のセキュリティの概要 \(P.13-2\)](#)
- [SRST セキュリティの設定のヒント \(P.13-3\)](#)
- [SRST のセキュリティ設定用チェックリスト \(P.13-4\)](#)
- [SRST リファレンスのセキュリティ設定 \(P.13-5\)](#)
- [SRST リファレンスのセキュリティの設定内容 \(P.13-7\)](#)
- [SRST リファレンスからのセキュリティの削除 \(P.13-8\)](#)
- [SRST 証明書がゲートウェイから削除された場合 \(P.13-8\)](#)

シスコの関連マニュアル

- *Cisco IOS SRST System Administrator Guide*
- *Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*